

心に残っている先生

私が5年生の時の先生のお話です。私は、体育がとても苦手なので、運動会の練習の時、ずっと立ちっぱなしで倒れてしまいました。急に気分が悪くなって、その場にしゃがみ込んでいた私を、その先生は優しく保健室まで連れて行ってくれました。私は、それまでちょっとその先生を怖がっていましたが、その時、先生は本当は優しいことが分かりました。私は、だれでも最初から性格を決めつけるのはよくないことだということを先生から気付かせてもらいました。

もう一つ、お話があります。これも5年生の時の先生のお話です。私は体育は苦手ですが、国語はとても得意です。しかし、実は国語は嫌いでした。ある日、先生が新聞の作文や俳句、短歌を載せるコーナーに作品を出そうと私たちに提案しました。私も含めて、クラスみんなは、最初しぶしぶ作文や俳句を書いていたのですが、その作品が次々と新聞に載りはじめ、みんな自分の作品が載るように一生懸命書くようになりました。ちなみに私の作品は10回以上も載り、クラスで一番たくさん載りました。この取組から、私はだんだん季節や気持ち、自然などについて、言葉で表現するということはとてもいいことだと思うようになりました。国語も大好きになりました。

このように、少しずつでも嫌いな教科が減っていくということは、とてもすばらしいことだと思います。私を国語が好きにしてくれた先生に感謝したいです。

井上 実咲

(小学生)